

「地域社会発展に貢献」

東濃信金、創業100周年式典

東濃信用金庫(多治見市本町)は1日、創業100周年記念式典を新本店で開き、地元政財界の関係者ら85人が出席し節目を祝った。加知康之理事長は「次の100年に向けて持続可能な地域社会の発展に貢献していく」と決意を述べた。

1922年に多治見信用組合として創業。79年に東濃地域の3信用金庫が合併して現在の形になった。56店舗の営業拠点を有し、預金量は約1兆2千億円。100周年記念の中心事業として鉄骨造9階建て、延べ床面積6716平方メートルの新本店ビルを建設した。コン

サートの開催や6市3町への寄付など複数の記念事業を展開している。

式典で加知理事長は「金融機関を取り巻く経営環境はかつてないほど厳しい状況にある。原点に立ち返り、経営理念の『地元と共にあり、共に栄える』のもと、健全経営を進める」と述べた。

来賓に伊野彰洋東海財務局長、中島健至日本銀行名古屋支店長、御室健一郎全国信用金庫協会会長、柴田弘之信金中央金庫理事長、古川雅典多治見市長らを迎えた。新本店は7日にグランドオープンする。



東濃信用金庫の創業100周年記念式典であいさつする加知康之理事長＝多治見市本町、東濃信用金庫本店